



## 「健康でかがやく子」になろう②

副校長 井上 和浩

令和元年もあとひと月で終わろうとしています。冒頭から自然災害の話題で恐縮ですが、今年度は2度の大きな台風に見舞われ、全国のいたるところで被害がでました。本校でも9月の台風15号では、職員室前の太い木が傾き、校庭の木が数本折れました。

各地で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

来年は平穏な年になることを願うばかりです。さて、小学校に目を向けると新学習指導要領の全面実施という大きな変化が待っています。この指導要領には、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。」(文部科学省のHPより)という願いが込められています。

そこでは「何を学ぶか」「どのように学ぶか」といった自己選択・自己決定をしていく力を育てていくことが一層求められています。つまり、教師は主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から「何を学ぶか」に加え「どのように学ぶか」も重視して授業を進めていくこととなります。

毎年、職員は授業力向上に向け校内重点研究に取り組んでいます。今年度の研究教科は「算数」です。すでに研究会は4回開かれ、12月5日(木)には第5回目が開かれます。毎回、数人の教師が「自分の考えや思いを伝えようとする子どもの育成」という主題に迫るため、授業プランを考え研究授業をおこなっています。授業後は研究協議会を開き、授業者の実践についてお互いに意見を交換します。

話し合いの切り口の1つには、学びが深まるよう教師がしかける子どもたちへの手立てがあります。手立てについていくつか例を挙げると次のようなものがあります。「興味関心をもてるように、他教科との関連を図る。(生活科の学習で扱うどんぐりを問題に取り入れる。)」 「実際におはじやブロックなどの具体物を操作する時間を十分にとる。」 「自分の考えを伝える機会を増やすために、少人数で考えを伝え合う時間を確保する。」 「算数日記(振り返り)を書くことを習慣にする。」

手立てについては、前回の研究会で講師から次のような話がありました。

「AさせたいならBと言え。これが子どもの心を動かすための原則である。させたいことを直接言っても効果がない。Bと言うことで、子どもは知的に動くようになり、内側から変わり始める。」

協議会ではもちろんほかの話題も出ます。多方面から授業を分析し意見を出し合い、教師も協働してスキルアップに励んでいます。そして、新学習指導要領のねらう「何を学ぶか」「どのように学ぶか」について本校の実態をふまえて実践しています。

来年がさらによい年になり、西小の子どもたちがもっともっとかがやく一年になるよう努力を重ねていきたいと考えています。